

# 糖尿病

京都武田病院



糖尿病センター長  
小川 栄一

**Q** 診断基準は。  
**A** 診断は血糖値とHbA1c (ヘモグロビンエーワンシ)の検査値を組み合わせて行います。食事の時間を決めずに測定

する随時血糖値は200mg/dl以上、朝食を抜いて測定す

## 近年開発の薬に大きな効果も

る空腹時血糖値は126mg/dl以上、ブドウ糖を摂取して測定する75gOGTT (経口ブドウ糖負荷試験) で2時間値200mg/dl以上なら糖尿病型と診断されます。HbA1cは6.5%以上で糖尿病型です。いずれかの検査が別の日で2回確認されると糖尿病と診断しますが、初回の検査で口渇や多飲、多尿などの典型的な糖尿病の症状が出現している場合や

糖尿病性網膜症がある場合は、糖尿病と診断されます。低血糖のリスクをかなり低下させます。他の治療薬のメカニズ

ムに影響を与えることもないため、組み合わせによってはより大きな効果が期待できます。  
**Q** 日ごろの注意点は。  
**A** 2型糖尿病の発症には、遺伝要素とは別に環境因子が大きく関わっています。カロリー過多にならない食事、糖質の吸収を緩やかにする食物繊維を積極的に取る、間食を控えることなどによって、糖尿病になりにくい体をつくることができます。また、糖尿病の発症とストレスや睡眠時間との関連が指摘されています。十分な睡眠を取り、ストレスを解消することも発症予防につながります。

る空腹時血糖値は126mg/dl以上、ブドウ糖を摂取して測定する75gOGTT (経口ブドウ糖負荷試験) で2時間値200mg/dl以上なら糖尿病型と診断されます。HbA1cは6.5%以上で糖尿病型です。いずれかの検査が別の日で2回確認されると糖尿病と診断しますが、初回の検査で口渇や多飲、多尿などの典型的な糖尿病の症状が出現している場合や

この薬剤は従来までの糖尿病の薬剤の欠点であった体重増加や

**Q** 治療法について。

**A** 食事療法、運動療法を行っても改善しない場合は薬物療法を行います。近年開発されたSGLT2阻害薬は、腎臓の近位尿管に存在するSGLT2の働きを阻害し、グルコース(ブドウ糖)の再吸収を減少させることによって、尿糖の排せつが増加して高血糖が改善します。

この薬剤は従来までの糖尿病の薬剤の欠点であった体重増加や

#### －診断基準は。

診断は血糖値と HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）の検査値を組み合わせて行います。食事の時間を決めずに測定する随時血糖値は 200mg/dl 以上、朝食を抜いて測定する空腹時血糖値は 126mg/dl 以上、ブドウ糖を摂取して測定する 75gOGTT(経口ブドウ糖負荷試験)で 2 時間値 200mg/dl 以上なら糖尿病型と診断されます。HbA1c は 6.5%以上で糖尿病型です。いずれかの検査が別の日で 2 回確認されると糖尿病と診断しますが、初回の検査で口渇や多飲、多尿などの典型的な糖尿病の症状が出現している場合や糖尿病性網膜症がある場合は、糖尿病と診断されます。

#### －治療法について。

食事療法、運動療法を行っても改善しない場合は薬物療法を行います。近年開発された SGLT2 阻害薬は、腎臓の近位尿細管に存在する SGLT2 の働きを阻害し、グルコース（ブドウ糖）の再吸収を減少させることによって、尿糖の排せつが増加して高血糖が改善します。この薬剤は従来までの糖尿病の薬剤の欠点であった体重増加や低血糖のリスクをかなり低下させます。ほかの治療薬のメカニズムに影響を与えることもないため、組み合わせによってはより大きな効果が期待できます。

#### －日ごろの注意点は。

2 型糖尿病の発症には、遺伝要素とは別に環境因子が大きく関わっています。カロリー過多にならない食事、糖質の吸収を穏やかにする食物繊維を積極的に取る、間食を控えることなどによって、糖尿病になりにくい体をつくることができます。また、糖尿病の発症とストレスや睡眠時間との関連が指摘されています。十分な睡眠を取り、ストレスを解消することも発症予防につながります。

2017 年 1 月 26 日京都新聞より抜粋